

2022（令和4）年度 事業報告

2022年度については、たばこ耕作における廃作募集の実施に伴い、農家数・面積が大幅に減少し、産地状況が大きく変化した中、葉たばこ生産の基盤強化ならびに耕作農家の資質向上に関する事業等を関係機関と連携し取り組んできたところであるが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が当財団事業に影響を及ぼした1年となった。

講座・研修事業については、産地・農家のニーズに適応した研修を計画したが、6割程度の開催実績となった。助成事業（近代化促進事業等）については、たばこ耕作組合（以下、耕作組合という）において担い手農家を中心とした足腰の強い生産構造の構築に向けた効果的な取組みを計画したが、一部の耕作組合において計画どおり実施できない状況となった。ふれあいセンター運営事業（収益事業）については、一般利用客が昨年度に比して増加したものの、コロナ禍前までの回復には至っていない現状にある。試験事業については、昨年4月に一般財団法人日本葉たばこ技術開発協会から譲り受け、円滑な移行とともに適切な試験実施等を行ってきた。

1. 講座・研修事業

（1）耕作農家研修

① 基礎講座

② 特別講座

（2）産地リーダーセミナー

2. 助成事業

（1）たばこ作近代化促進事業

（2）農業後継者育成活動事業

（3）技術指導事業

（4）広報紙発行事業

（5）組合運営合理化対策事業

3. 研究調査事業

- (1) 刊行物の発行に対する助成

4. その他助成事業

- (1) エコ乾燥室助成
- (2) バーレー種新体系助成
- (3) 産地基盤強化対策助成

5. 試験事業

- (1) 新器材試験
- (2) 農薬登録調査

6. 『ふれあいセンター』運営事業（収益事業）